

あそび防災プロジェクト 防災ヒーロー入団試験 ～親子で知ろう、身近で大事な防災のこと～

石川シングルマザーの会
副代表 境 直子

1. はじめに

1-1. 地域の課題と必要性について

石川県では2020年12月頃から地震が多発しており、中規模以上（震度5弱以上）の地震も増えている。その回数は47都道府県のうち10位に入るほどである。

2022年6月には石川県の能登地方（珠洲市）で最大震度6弱の地震が発生した。金沢市では大きな被害は少ないが、それによって防災への備えという意識が低いのが現状である。

災害現場では乳幼児・小さな子供を連れての避難など細かいところにも配慮が必要であるが、その声を上げられないこと、災害現場や避難所においての女性のニーズについて配慮されないといった課題があがっている。

（参考）「災害対応力を強化する女性の視点」令和2年5月／内閣府男女共同参画局

災害が実際に起こった時には自分で生き残るための知恵＝自助、他人を助ける知識、地域や身近にいる同士が互いに助け合う共助が大切でありながら、そのための知識を得る機会が現状では避難訓練程度しかなく、コロナ禍での催し物中止も相次ぎ、子どもたちが防災について学ぶ機会が少ないことも課題である。

特に、ひとり親家庭については、大規模災害が起きた時に、ふたり親家庭よりも子どもが一人きりになってしまうリスクが非常に高い。そのため、万が一の災害時に子どもたちが生き延びられるよう、防災に対する心構えや知識を身につけさせたいと考えるひとり親の声も当会へ届いている。

1-2. 本事業の経緯について

当会は金沢市委託事業である「協働のまちづくりチャレンジ事業」にて、令和3年度と令和4年度の2年連続で採択され、防災教育をテーマに事業を行っている。

この事業では金沢市危機管理課や金沢市コミュニティ防災士ネットワークと連携し、「シングルマザー×防災」をテーマとして、実践形式での防災知識の取得や石川県内のハザードマップの見方、自分たちの居住地域について考える機会を設け、自助＝自分の身は自分で守るということを学ぶ機会とした。

自助について理解を深めた上で、次に必要な「共助」についての啓発も必要だと考えた。総務省消防庁の「自主防災組織の手引」のなかにも課題の一つに【地域社会とのつながり、結びつきの希薄化】が指摘されている。

そこで、金沢市と防災士に協力を仰ぎ、地域住民の交流と防災教育を掛け合わせた本事業の計画を進めた。

金沢市はその個性や魅力を活かして国内外から人・モノ・情報を集め、その交流を通じて新たな価値の創造と持続的な発展を続ける「交流拠点都市」を目指している。そのために金沢市は市民との協働で金沢の“まちのちから”をさらに高めるために、【金沢かがやき発信講座】という金沢市の職員が直接訪問し、金沢の街の魅力や市民の皆様とともに進めていくまちづくり事業を行っている。

今回のイベントもこちらのかがやき発信講座を活用し、金沢市と共に創り上げた。

1-2. 本事業の目的

女性が積極的に防災に関わっていける場を、私達ひとり親支援団体が企画・提供することで、社会的に支えられる側から発信者となって地域社会、人との繋がりを構築し、女性目線の防災を深堀していく。

「もしも災害が起こったらどのような行動をとるのか」「石川県に災害が起こったらどのくらいの規模になるのか」等、大人も子どもも防災について身近に考える機会となるように、親子でコミュニケーションを取りながら、自分で助かる、他人を助ける知恵や経験を得る場を作る。

1-3. 事業概要

株式会社 IKUSA が提供する「あそび防災プロジェクト／防災ヒーロー入団試験」を取り入れ、子どもを中心に「もしも災害が起こったら」をテーマに体と頭を使って体験できるイベントを行う。

【実施場所】大桑防災拠点広場

【実施時期】2022 年 9 月 11 日（日）10：00～15：00

【見込み参加者数】30 組 80 名程

【イベント内容詳細】

各種目をクリアしてスタンプラリーを行う。全ブースを周り、すべてのスタンプを GET した子供たちには防災メダルと防災ヒーロー入団証が進呈される

＜各ブース＞

- ・防災ウォークラリー
- ・スモーカー迷路
- ・防災クイズラリー
- ・地震体験車
- ・水消火器体験
- ・AED、心肺蘇生体験

2. 本事業の成果

防災ウォークラリー、スモーキー迷路、防災クイズラリーの他に、金沢市消防局の協力による地震体験車、水消火器体験、日本赤十字社石川県支部の協力により AED を用いた心肺蘇生体験、明治安田生命保険相互会社による手のひらを使って不足などを調べるベジチェックと7種類のブースを設置した。

告知はチラシ、石川シングルマザーの会ホームページ、SNS を使用し、事前応募では、50組の応募があった。

当日は、事前予約の他、本会場が公園に隣接しているため、公園に遊びにきた親子の当日参加も受け入れ、親子連れなどファミリー層を中心に 62 組述べ 201 名の参加となった。

金沢市役所危機管理課が管理している当日の会場である「大桑防災拠点広場」は、防災士の研修などで使用されており、団体としての使用登録、使用許可をいただいて借りることとなったが、今回のような一般客を対象とした催し物の開催を行う目的としては初めての貸し出しであった。

事前準備では参加者の来場時間を分散し、1 時間ですべてのブースを回れるような配置を考え、駐車場や受付スタッフ、各ブース担当スタッフを配置し当日までオンラインでのミーティング、当日のミーティングを行い当日は大きなトラブルなども一切なく時間通りにイベントを撤収することができた。

<当日の様子>



会場となった「大桑防災拠点広場」は金沢市危機管理課の協力により使用許可を得た。メインコンテンツ「防災ヒーロー入団試験」では、スタンプラリー形式で親子で防災を学ぶ。受付でスタンプラリーのカードを受け取り、まずは「スモーキー迷路」へ。



水蒸気による疑似煙で、火災時に煙の中で避難する体験をして、1 つ目のスタンプをもらう。

次は「防災リュック間違い探し」で、40 秒以内に避難所へ持っていくものを 10 個選んでリュックの中に詰める。



一つ一つ確認しながら答え合わせをすると 2 つ目のスタンプがもらえる。

会場のあちこちに貼られているキーワードを見つけ、LINE を使いながらクイズに答えると、3 つ目のスタンプがもらえる。



スタンプを 3 つ集めると「防災ヒーロー認定証」が完成し、ヒーローバッジが進呈された。



日本赤十字社石川県支部による心肺蘇生法の実習体験ブースでは人体模型を用いて実践体験を行った。



地震体験車ブースでは、震度 7 までの地震を体験することができる。

消防士から水消火器で消火器の使い方を教わり、実際に障害物に向けて噴射し、実践ながらの体験も。



明治安田生命保険相互会社からはイベントへの協賛と、機械に手のひらを乗せるだけでどれだけ野菜が摂れているかを測れるという「ベジチェック」ブースにて出展協力を得た。予想を超える参加者数だったものの、ブースを増やしたことや広い場所を借りられたことで分散することができ、待ち時間も少なく、多くの親子に体験を提供することができた。

3. 今後の展望

シングルマザーが自分の選択に誇りを持ち、自分らしく生きること、子どもたちにも「自分で道を切り開く力」を備えてほしいというのが私たちの活動の中心となっています。

これまで、任意団体の石川シングルマザーの会として、金沢市や自衛隊、防災士の皆様と協働し防災イベントを開催し、ひとり親支援として食料配布や運動教室、情報交換や交流会など様々な活動をしてきました。

地域の団体や企業と協力しながら活動を続けてきた結果、当事者だけの団体ではなくなってきたため、2023年4月からは「NPO法人 シンママ応援団」として、さらに活動の幅を広げ、体験格差事業としての自然体験活動に力を入れていきたいと考えています。経済格差解消事業としてのITスキルアップ研修等も事業として進め始めています。

「母と子の第一歩を支える、日本一元気な応援団」として私たちは今後も地域の皆さまと共に活動を続けてまいります。